

(追加)

両生類

No	種和名	学名	ランク	環境省ランク	選 定 理 由								県内分布	国内分布	種の概要 (形態、生態等)	特記事項	保護上の 留意点等		
					人為性			特殊性		学術性									
					個体数激減	分布域縮小劣化	営利目的捕獲	純系個体激減	特殊生息環境	地域的孤立	分布が極限	分布の限界						希少	
17	セトウチ サンショ ウウオ	<i>Hynobius setouchi</i> Matsui, Okawa, Tanabe et Misawa, 2019	B	未		○	△							△	西宮市からたつの市にかけての瀬戸内海沿岸地域、宝塚市、三田市、猪名川町、西脇市、三木市、小野市、加東市、多可町、福崎町、太子町、丹波篠山市、淡路島の三市など	大阪府、岡山県、広島県東部、香川県、徳島県それぞれの瀬戸内海沿岸部。	成体は頭胴長 45～58 (平均 52.1) mm。肋条数は 13。鋤骨歯列は V 字型で幅は頭胴長の 5% 強。背面は茶褐色ないし暗褐色で、目立つ模様はない。尾は側扁する。卵囊の表面には明瞭な筋はない。平地から丘陵地の湿潤な環境に棲み、止水に産卵。	これまで長い間、カスミサンショウウオの近畿・四国北東部の集団とされてきたが、2019 年 2 月に Matsui et al. (2019) によって独立の新種として報告された。	多くの生息地で環境が悪化しており、生息地間の分断も進んでいる。販売目的での乱獲も懸念される。
18	ヒバサン ショウウ オ	<i>Hynobius utsunomiyaorum</i> Matsui et Okawa, 2019	A	未	△	△	△			△	○	○	△	△	宍粟市	広島県、島根県、岡山県、鳥取県にまたがる中国山地の内陸部。宍粟市内の分布域は、種の分布の東限。	成体は頭胴長 43～60 (平均 53.6) mm。肋条数は 12。鋤骨歯列は V 字型で比較的大きく、幅は頭胴長の 5.8%。背面は茶褐色の地に褐色の斑紋と明色の細斑が散らばる。尾は側扁し、背中線上に不明瞭な淡色の縦条がある。卵囊の表面には明瞭な筋はない。平地、丘陵地の湿潤な環境に棲み、止水に産卵。	これまで長い間、カスミサンショウウオの近畿・四国北東部の集団とされてきたが、2019 年 2 月に Matsui et al. (2019) によって独立の新種として報告された。	平地、丘陵地の湿潤な環境、産卵場所となる止水の維持、こうした場所へのアライグマの侵入の防止が重要。乱獲も懸念。
19	サンイン サンショ ウウオ	<i>Hynobius setoi</i> Matsui, Tanabe et Misawa, 2019	A	未	△	△	△			△	○	○	△	△	新温泉町	島根県と鳥取県の日本海沿岸。新温泉町の分布域は、種の分布の東限。	成体は頭胴長 49～69 (平均 58.8) mm。肋条数は 12。鋤骨歯列は V 字型で小さく、幅は頭胴長の 4.8% 程度。背面の地色は暗褐色で、明色の細斑が散らばる。尾は側扁し、背中線上に不明瞭な淡色の縦条がある。卵囊の表面には明瞭な筋はない。平地、丘陵地の湿潤な環境に棲み、止水に産卵。	これまで長い間、カスミサンショウウオの近畿・四国北東部の集団とされてきたが、2019 年 2 月に Matsui et al. (2019) によって独立の新種として報告された。	平地、丘陵地の湿潤な環境、産卵場所となる止水の維持、こうした場所へのアライグマの侵入の防止が重要。乱獲も懸念。